

# 「ヘボンの日本宣教に学ぶ改革派教会の伝道と教会形成」

辻 幸宏

## 1. 創立宣言から確認する日本キリスト改革派教会の伝道

### ・有神論的人生観世界観の確立

参照：ウェストミンスター小教理問答 問1

(袴田訳)

「人間の主要な目的は、神の栄光をたたえ、永遠に神を喜ぶことです」。

イエス  
耶穌教略問答（ヘボン訳） 別紙参照

I コリント10:31

- ・「見えない公同教会」に属する私たちは、  
一つ信仰告白、一つ教会政治、一つ善き生活をもって、  
地上に見える教会を形成する

## 2. 日本キリスト改革派教会宣言に語られる伝道論

- ・創立40周年宣言 3. 福音の宣教について
- ・創立50周年宣言 伝道の宣言  
序文 神の国の福音の宣教 日本伝道への視点 祈り
- ・創立70周年宣言 福音に生きる教会

## 3. 教会の伝道に求められること

〈創立宣言第二の主張〉

- ・教会形成

〈創立宣言第一の主張〉

- ・教育
- ・医療福祉（ディアコニア）

〈例〉

- ・忠海教会／聖愛幼稚園／聖恵会
- ・大韓イエス教長老会高神派／  
高神大学／高神大学福音病院
- ※双恵学園 ※静岡盲人センター
- ※淀川キリスト教病院（全人医療）
- ※東北支援、熊本支援

- ・「近代的な宣教というのは、三位一体的な構造を持っています。最初に教会があって、次に学校があり、その次に病院がある。この三つによるトライアングルによって宣教が強力に進められてきました。」\*1

→教会・教育・福祉の関係は、キリストの三職（王・預言者・祭司）の関係の表れであり、教会活動（長老・牧師・執事）との連なりが求められる。

- ・しかし日本の教会の宣教は、教育、医療福祉が教会活動から切り離され、宣教の働きを十分に果たしていない。

→キリシタン禁令（徳川幕府）と明治政府による宗教政策の継続

---

\*1 李省展『「思想信条の自由」と国家』（「改憲へ向かう日本の危機と教会の闘い、いのちのことば社、2014）p105

## 4. ヘボンの日本宣教

### ①ヘボンとは…

- ・ヘボン式ローマ字で有名
- ・宣教師（米国長老派教会医療伝道宣教師）
- ・医者（専門：眼科）
- ・本名：ジェームス・カーティス・ヘボン、James Curtis Hepburn、平文
- ・1815年3月13日 - 1911年9月21日（生涯年表は別紙）

### ②ヘボンの医療

- ・ペンシルバニア州、ニューヨークにて開業。
- ・来日直後から、診療活動を開始(主に眼科)。
- ・生麦事件(1862)にて2名を手術する。
- ・三代目沢村田之助の左足切断手術を行う。
- ・診療所閉鎖(1876)。

### ③ヘボンの教育

#### (1) 学校教育

- ・ヘボン塾開設(1863-1876:バラに譲渡)。
- ・横浜英学所開設(1864-66.10)。
- ・フェリス女学校創立(1870)。
- ・東京一致英和学校設立(1880)。
- ・明治学院創設(1886)。

#### (2) 辞書作成

- ・アモイ語の辞書を編纂(1843)。
  - ・「和英語林集成」編纂出版(1867、第二版：1872、第三版：1886)
- ローマ字を整えていく。  
→著作権は丸善へ売却。

### ④ヘボンの教会形成

#### (1) 長老教会建設

- ・日本基督公会（横浜公会、現：日キ横浜海岸教会）（バラ：1872.3）。
- ・横浜第一長老公会（横浜住吉町教会、現：教団指路教会）設立(1874)。
- ・日本基督一致教会設立(1877-1890)→(旧)日本基督教会(-1941)。  
信仰告白：ウェストミンスター信仰告白、同小教理問答、  
ハイデルベルク信仰問答、ドルト信条

#### (2) 聖書翻訳

- ・聖書翻訳委員社中発足(1874)。
- ・新約聖書の和訳完成（明治元訳）(1880)。
- ・旧約聖書の和訳完成（明治元訳＝文語訳）(1888)。

#### (3) 信仰告白・その他

- ・「三要文」刊(1872)奥野昌綱と共に。
- ・「十字架物語」刊(1874)。
- ・「耶蘇教略問答」（ウェストミンスター小教理問答）刊(1876)。
- ・「ウェストミンスター信仰簡条全」刊(1880)。
- ・「聖書辞典」刊(1892)山本秀煌と共に。



## 「ヘボンの日本宣教に学ぶ改革派教会の伝道と教会形成」

辻 幸宏

### 1. 創立宣言から確認する日本キリスト改革派教会の伝道

改革派教会の伝道を考えるにあたって、改革派教会がどのような教会を建て上げようとしている教会であるかを確認する必要があります。日本キリスト改革派教会は、今から70年前の1946年4月28日・29日に創立大会を行いました。その時に、日本基督改革派教会宣言、つまり現在私たちが語る創立宣言を採択しました。

宣言集が発行されましたので、本文は確認して頂けるでしょうが、創立宣言には、二つの主張があります。

主張の第一点は、「有神論的人生観世界観を確立」することです。これは宗教改革の言葉では、「神の御前に」であり、コーラム・デオですが、インマヌエル（神は我々と共におられる）です。すべてを知っておられる神さまの御前に生きる私たちは、何をするにしても、私たちを救いに導いて下さった神の栄光を称え、主を証しする生活が求められているのです。このことは、私たちの信条でありますウェストミンスター小教理問答問1で語られている「人間の主要な目的は、神の栄光をたたえ、永遠に神を喜ぶことです」。そして、Iコリント10:31にあります、「だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」と語られていることそのものです。

そして主張の第二点は、「見えない公同の教会に属する私たちは、一つ信仰告白、一つ教会政治、一つ善き生活をもって、地上に見える教会を形成することです。つまり、日本キリスト改革派教会は、信仰告白として、ウェストミンスター信条（信仰告白・大教理・小教理問答）、教会政治としては長老主義政治を採用しています。監督主義でも会衆主義でもないのです。そして、神港に基づく善き生活をもって主を証しする者とされています。

これらをもって、日本キリスト改革派教会は、伝道を行いはじめたのです。

### 2. 日本キリスト改革派教会宣言に語られる伝道論

この改革派教会の伝道論を具体的に、宣言ではどのように語ってきたかと言えば、「創立40周年宣言」の3番目「福音の宣教について」があり、「創立50周年宣言」では「伝道の宣言」を採択しました。さらに今回採択しました「創立70周年宣言」の「福音に生きる教会」においても、どのように伝道し教会形成を行うかを語っています。

改革派教会の伝道を考える時、これらの学びを行えば良いのですが、宣言集がありますので、これらの学びは、個人で、あるいは教会において行っていた

だきたいと思います。

### 3. 教会の伝道に求められること

#### ①伝道は、教会・教育・福祉の三位一体的に行うこと

今回の講演においては、三つの方向性をもって伝道することが求められていることを考えたいと思っています。レジメに李<sup>ソングン</sup>省展さんの「『思想信条の自由』と国家」の言葉を記しています。私に関わっています信州夏期宣教講座にお招きした時に語って下さいました。私は改革派教会の伝道とは何かをずっと考えて来ていたのですが、この言葉を聞いて、初めて腑に落ちたのです。

「近代的な宣教というのは、三位一体的な構造を持っています。最初に教会があって、次に学校があり、その次に病院がある。この三つによるトライアングルによって宣教が強力に進められてきました」。つまり「教会」とは、創立宣言の第二の主張を実践することによって行ってきたのですが、第一の主張、カルヴィニズムの実践として、「教育」と「病院」があることがはっきりとしめされたのです。「病院」とは、「執事活動」現在においては「ディアコニア」というギリシャ語がよく用いられていることです。

これらのことは、改革派教会においても行われてきていました。例えば、教育ということであれば、大宮教会にも関わりがあります「双恵学園」がその実践でした。継続することが出来なかったのですね。また、四日市教会においては、「まきば幼稚園」があります。北浦和教会においても「双恵幼稚園」がありましたね。また、福祉ということであれば、静岡盲人キリスト教センターや、聖恵会の働きがあります。また、東北の震災の後、のぞみセンター、サクラハウス（東仙台）、陸前高田の救援活動などが続けられています。今回の熊本地震においても、早速、大会執事活動委員会を中心に救援活動が始められています。

#### ②教会・教育・福祉の三位一体的構造の例

このように、教育、執事活動が大切であることを理解し、活動してきているのですが、教派として一致して「教会形成」・「教育」・「執事活動」が三位一体的な構造をもっており、互いに協力し合うことによって、宣教が行われていくことが語られたことはなかったかと思います。

ただ、聖恵会があります忠海教会においては、聖愛幼稚園・わずか10名程度の小さな幼稚園ですが、100年程継続しています。そして聖恵会があり、忠海のみならず、竹原市において重要な働きを担っています。その中心に忠海教会があるのです。これは、今日、私が語っている改革派教会の宣教論の理想的な働きであるかと思っています。皆さまも、ワークディなど、機会がありましたら、訪れていただきたいと思います。

それと合わせて、日本キリスト改革派教会と宣教協力を結んでいます大韓イエス教長老会（高神）の宣教は、まさに教会・教育・病院が三位一体において

行われています。高神は、高神大学の設立、医療伝道がきっかけで、形成されていった教派です。そして教派立の高神大学は、釜山にあります。大学には「コーラム・デオ（神の御前で）」と記されており、教職員はキリスト者でなければなりません。そして高神大学の付属としての高神病院は、釜山において一番大きな病院の一つです。

高神派を見倣わなければならないのは、こうした教会・教育・執事活動が、総会において行われているだけではなく、各教会毎に行われる意識があるということです。中部中会と姉妹関係にあります東釜山老会にあります南川教会（現副総会長：ペギャンホァ牧師）の教会では、毎週、礼拝の前に、地域の浮浪者のために炊き出しが行われています。そして、障害者のための礼拝も行われ射ます。また、シンフォニ教会では、教会の付属施設として障害者のための住宅があり、生活全般を教会でカバーし、礼拝においても指話通訳が行われていたりします。

### ③躓いた日本宣教

つまり、今日の私の講演の結論ですが、改革派教会の宣教を考える時、教会と教育・福祉（ディアコニア）が三位一体的に行われることが求められており、伝道・福音宣教のみでは、福音に力がないのです。

よく「政教分離」と語ることに、「教会が政治に口を出してはならない」と語られています。しかしそれは実際には、教会が教育も医療も放棄していることと同じなのです。そして「政教分離」の本来の意味は、「政治が宗教を利用してはならない」ことを語っているのであって、「宗教（教会）が政治に見張りの務めを行い、口を挟んではいけない」のではないのです。

このことは、私たちが肉・霊・魂において生きており、すべてにおいて、神の御前に、神の栄光を称えて生きようとする時に、肉的な事柄を行わずに、霊的な領域のみで宣教を語っていてもダメなのです。

そして、私の中でもまだ十分に整理されていないのですが、教会・教育・福祉の関係は、キリストの三職（王・預言者・祭司）の関係の表れであり、教会活動（長老・牧師・執事）との連なりが求められているのだと今、漠然と思っています。

しかし日本の教会の宣教は、結果として直接的な福音宣教以外の部分を切り捨ててきたのです。それは、157年前にプロテスタント宣教が始まった時からなかったかと言えば、違います。当時はアメリカを中心とするリバイバルズの最中、多くの宣教師が日本に来たため、確かに伝道一辺倒であった人たちもいたのです。それを否定しません。

しかし、日本伝道を行った当初の宣教師の中には、そのことを理解し行っていたけれども、実現できなかったと言わなければなりません。

つまり、1859年に最初のプロテスタント宣教師が来日して以来、日本宣教が始まり、1873年にキリシタン禁令の高札が撤去され、禁教令が廃止に

なりますが、明治政府は、江戸の徳川幕府におけるキリシタン禁令をまったくなくそうとしたのではないのです。むしろ本音は、続けたかったのです。それが特に教育政策に表れます。

徳川幕府もそうでしたが、明治政府においても、キリシタンを非常に恐れていました。そのため、徳川幕府は、当初、ほとんど力を持っていなかった寺を用いて、宗派を問わない檀家制度を組織していったのです。大宮はどうか分かりませんが、私の住む大垣などでは、今なお町内会があり、行政との繋がり、近所の繋がりが必要だと言いつつ、寺の祭りなどとも結びついているのですね。大垣ではあからさまに、寺や神社に援助金が支払われたりしていませんから、私も行動していません。しかし、前の任地であります諏訪においては、今年、諏訪の御柱が行われていますが、一人あたり〇〇円の寄付をするようにと連絡が入り、班長になれば、それを徴収に回らなければならないのです。

こうした町内会というのは、キリスト教を排除するために檀家制度が作られたことの延長線上にあるのです。

それと同時に、為政者は、教育の中にキリスト教を持ち込ませないということを決定的に行ったのです。二つの例を語ります。3年前の2013年に放映されたNHK大河ドラマ「八重の桜」をご覧になった方もいるかと思います。主人公の八重が後妻に入る新島襄は同志社の創設者ですね。ドラマを見られた方は思い出していただきたいのですが、新島襄が同志社大学を作っている時、政府との間で、激しい戦いがありました。それが授業の一貫で、礼拝を行うこと、聖書の授業を行うことの是非でした。

もう一つの例が、1891年に発生した内村鑑三の不敬事件です。これは前年1890年10月に発布された教育勅語に対して、91年1月に、教育勅語拝読式が、内村が勤めていた第一高等中学校においても行われた時です。天皇の御名に対して敬礼が求められ、内村も行ったのです。しかし同僚教師、生徒から、最敬礼をしなかったことが天皇に対する不敬と見なされ、結果、内村は退職が迫られたのです。

この時以後、教会、キリスト者は、教育に対して、関わっていくことが出来なくなっているのです。このことは、戦後においても変わることなく、現在においては、さらにあからさまになっているのではないのでしょうか。

## 4. ヘボンの日本宣教

### ①ヘボンとは…

そして、今日の講演題にも記しました日本プロテスタント教会の初期の宣教師ヘボンを紹介したいと思います。ようやく、主題に従った講演となります。ただこれは先程申しました結論に対する実践の確認であり紹介です。

さて「ヘボン」と語っても、「ローマ字」しか思い浮かばない方々も多いかと思ひます。むしろ「ローマ字」といえば、小学生であっても誰もが「ヘボン」のことを思い浮かべることが出来るかと思ひます。今日取り上げますヘボンは、まさにローマ字で有名な「ヘボン」のことです。

ヘボンは、1859年に最初に日本に来た宣教師の一人です。(北)米国長老教会の宣教師です。宣教師と言へば、福音宣教を行う牧師職を持った人だと思われる方も多いかと思ひますが、彼は医療伝道の宣教師でした。

つまり、先程語りました教会形成・教育・医療の三つの分野において、彼は日本において大きな功績を残した宣教師であり、改革派教会に属する私たちは、もっとヘボンから学ぶ必要があるのです。

日本では「ヘボン」と語り、日本語では「平文」と記していましたが、本名は、「ジェームス・カーティス・ヘップバーン」です。「オードリー・ヘップバーン」、「キャサリン・ヘップバーン」と同じ「ヘップバーン」です。日本に来た当初から、日本人が、「ヘップバーン」と読み取ることが出来ず「へぼん」と呼ばれたため、彼も反論することなく、そのまま「ヘボン」と名乗ったのです。

彼は、1815年3月にアメリカに生まれますが、彼の祖先は、スコッチ・アイリッシュです。つまり、16～17世紀スコットランドのピューリタンは、迫害を恐れアイルランドに逃れ、さらに新大陸アメリカに渡ってきたのですが、彼の家系もこのスコッチ・アイリッシュであり、敬虔な長老教会の信者だったので、200年近くの信仰の積み重ねがあるのです。これは大きな財産です。

この後は、「ヘボン生涯年表」を確認しながら、話しを進めていきたいと思ひます。ヘボンに関しては、様々な書籍があり、伝記が記されています。その多くに「年表」も記されています。私もそれに従って記しましたが、医療、教育、辞書・ローマ字、教会、聖書翻訳、信仰告白・書籍に分類しました。私たちにとっては、これらの一つの分野に従事していくことも、大切な働きですが、彼は、すべての分野にあって、超一流の活躍を行ったのです。ちょうど、パウロやカルヴァンに匹敵する働きであると、私は思っています。

## ②ヘボンの医療

まず、医療に関してです。この分野に関しては、多くの伝記に記されているとおりです。資料として、6ページある「ヘボンの生涯」をお渡ししました。これは明治学院大学のHPにあったもののコピーです。この前半部分は医療について記されていますので、帰ってからご覧下さればと思ひます。

年表で確認していただければお分かりのとおり、彼は17歳でペンシルヴァニア大学医学科に入学し、21歳で医学博士の学位を取得し、23歳で開業しています。一度、中国のアモイに宣教師として遣わされますが、31歳の時、帰国してニューヨークで改めて開業いたします。1840年のニューヨークは

30万人です。1850年には50万人を突破します。

ヘボンはこのニューヨークにおいても有数の医師として活躍し、富を得ます。

そして1859年4月、日本において開国されるとの情報が伝えられると、ヘボンは、医療宣教師として日本に来ることを北米長老教会に申し出て、許可を得て、10月17日に神奈川に到着します。

ヘボンは来日直後から診療活動を行い、日本においては西洋医療と出会うのですが、多くの患者が治療を受けるようになります。しかし宣教師であるヘボンが人々から称賛を受け、キリスト教が受け入れられるようになることを嫌う幕府はヘボンの診療所の閉鎖を命じます。こういうことが繰り返されるのです。

また、ヘボンは、1862年に発生した生麦事件で負傷したイギリス人2名の手術をしたり、当時の有名な俳優三代目沢村田之助の左足切断手術を行ったりしました。

### ③ヘボンの教育

#### (1) 学校教育

ヘボンの教育に関わる事柄に関しても、明治学院大学を始めとして、様々な研究・報告は行われています。来日当初からヘボン塾を開設し、英語を教えたり、教育事業を行います。クララ夫人が始め、メアリー・ギターによって続けられた学びが、フェリス女学院となります(1870)。また、明治学院大学を創設します(1886)。

教育とは、信仰のにとって大切なのです。ヨーロッパにおいて大学制度が始まったのは、神学の研究からです。また、初等教育も宗教改革期に、印刷聖書が届けられるようになり、聖書を読むための学びが始まったのがきっかけです。今でもアメリカなのでも、教会やクリスチャン個人が、ホームスクールを行い、一般教育と共に、信仰教育を行います。

日本では、教育を学校に任せきりにしていますが、ここに問題が多くあるのです。日の丸・君が代の問題を始め、現在の憲法や立憲主義の問題に関しても、学校教育の影響は非常に大きいのです。

教会において、教育を担っていくようになればそれでよいのですが、現在のよう  
に教育を学校に任せている現在の教会は、学校で教えられることを100%  
鵜呑みにするのではなく、自分の力で考え、受け入れる部分と、信仰によっ  
て否定しなければならないこととを、判断する能力を、子どもたちに教えてい  
かなければなりません。

#### (2) 辞書作成

次に、ローマ字の編纂に繋がります辞書の編集に関してです。ヘボンは短い間ですが、中国のアモイに宣教師として派遣されていた時にも、辞書を編纂していたことが言われています。これは現存していないようですので、確かめられないのが残念です。

辞書を作るということは、聖書翻訳との関わりで、非常に大切な働きです。

彼は来日以来、地域の人々から聞いた言葉を書き留めては、単語帳を増やしていきました。そして1849年の来日から18年経った1867年に和英・英和辞典であります「和英語林集成」を出版します。この時、日本では活版印刷がなかったため、ヘボンは上海に渡り、日本語、特にひらがな・カタカナの活版を作ることから始め、印刷したものを、日本に持ち帰ったのです。これが本格的な、最初の和英・英和辞典となり、飛ぶように売れたのです。再版もヘボンは上海に渡り、印刷して、日本に持ち込んだのです。そして第三版になり、初めて日本で印刷することが出来たのです。

現在は、明治学院大学からこの初版のリプリントが出版されていますので、確認することが出来ますし、簡易なものであれば、第三版が講談社学術文庫として出版されていました。

ちなみに、この「和英語林集成」の著作権は、外国人としては初めてヘボンが手にしたのですが、外国人に認められなかったため、ヘボンは著作権を後に丸善に譲り、その資金において、明治学院大学にヘボン館を建てたのです。

またローマ字に関してですが、この語林修正において五十音順の表を提示しました。レジメの裏に対照表をお配りしましたが、語林集成によっても版によって修正されていたこと、またキリシタンの時代から江戸の時代のオランダ語におけるローマ字からの変遷なども、確認することができます。

辞書・ローマ字に関しても、多くの研究が行われていますので、詳しく知りたい人は、それらによってより深く研究していただければと思います。

#### ④ヘボンの教会形成

##### (1) 長老教会建設

さて、ヘボン研究において、あまり研究されていないことが、教会との関わりです。聖書翻訳に関しては、研究されていますが、長老教会を建て上げたこと、信仰告白、特に私たちとの関わりの深いウェストミンスター小教理問答・同信仰告白の翻訳、あるいは聖書辞典を編纂したことなどは、紹介されることもほとんどありません。

日本で最初の教会は、1872年にバラによって設立された日本基督公会(横浜公会・現横浜海岸教会)です。これはアメリカのリバイバルの影響もあったと思うのですが、教派を超えた一つの教会を作るといった思いがあったのです。しかし、これでは教会形成が出来ないと思ったヘボンは、1874年に、来日して間もないルーミスを牧師として、「横浜第一長老公会(現：横浜指路教会)」を設立します。これが日本最初の長老教会です。この時の状況を、「横浜指路教会125周年史」において、牧師の藤掛順一牧師は、まえがきで的確に記されていますので、紹介します。「横浜指路教会の誕生はそれ自体が一つの主張を含んでいます。日本最古のプロテスタント教会は周知のように、1872年に設立された日本基督公会(現、日本キリスト教会横浜海岸教会)です。横浜指路教会はそれに遅れること2年、「横浜第一長老公会」として誕生しました。

それはいわゆる無教派主義を標榜して日本基督公会を設立したバラやブラウンに対して、ヘボン、ルーミスといった宣教師たちが、長老教会としての教派的性格をはっきりさせた伝道と教会形成の必要を主張してのことでした。横浜指路教会は長老教会としての教派的性格を明確に打ち出した教会として誕生したのです。」

「公会主義」（現日本キリスト教団）と「教派（長老教会・改革派教会）形成」の議論は、今に続きます。終末に向けては、すべての教派はなくなります。しかし、御言葉に基づく信仰告白抜きには、信仰は希薄になり、罪が教会に蔓延することを排除することができません。現在の日本キリスト教団で最大の問題は、無陪餐配餐であり、無陪餐配餐を行った牧師の戒規・除籍のことです。この問題は深入りしませんが、長老教会を建て上げることの大切さを、ヘボンを中心とする宣教師は、1877年に日本基督一致教会を創立させることによって実現します。この時、信仰告白としてウェストミンスター信仰告白、同小教理問答、ハイデルベルク信仰問答、ドルト信条を採用したのです。これが日本人にも不評で、結果、簡易信条の使徒信条に前文を附す信仰告白に変更した日本基督教会が1890年に改組されていくのです。これが、公会主義をかかげる宣教師、日本人牧師が中心に行われたのですが、結果として、日本の教会の力を弱めたのです。

ちなみに、一致教会の4つの信仰箇条は、現在、リプリントとして読むことが出来るようになっていますが、一致教会が設立した当初は、ウェストミンスター小教理問答しかなく、あとは英語に頼るしかなかったのです。

## (2) 聖書翻訳

次にヘボンの功績の中で、最も時間をかけ、また大切な働きである聖書翻訳を確認しなければなりません。ヘボンが辞書を編纂したのも、聖書を翻訳するためでした。そして日本語として、読みやすく、かつ格式ある言葉として、聖書の翻訳を目指します。ヘボンは、来日当初から私訳を行います。1874年に、聖書翻訳委員社中を発足させ、宣教師の教派を超えた聖書翻訳を目指します。そして1880年に新約聖書、1888年に旧約聖書を完成させます。もちろん、共同で翻訳を行ったのですが、新約・旧約の全編にわたって聖書翻訳に関わったのはヘボン一人であり、新約聖書の2/3、旧約聖書の1/2は、ヘボンによって翻訳されたのです。新約聖書は、明治元訳として、今、すぐによむことは出来ませんが、リプリント（エターナル）もありますし、インターネットにおいては、国会図書館や明治学院大学図書館などで、確認することが出来ます。

また、旧約聖書は、文語訳聖書が今もヘボンたちの訳をそのまま留めています。新約聖書は、大正に改訳されたものです。

ヘボンを中心に行われた聖書翻訳、すでに中国語聖書があったということもありますが、神学用語に関しては、新たな中国語から採用するものが中心です

が、労苦があったことを覚えなければなりません。

現在も、新共同訳聖書の日本聖書協会も、新改訳聖書の日本聖書刊行会も、新しい翻訳を行い、2017年には完成の予定ですね。新しい翻訳聖書を手取る時、私たちは改めて、ヘボンの功績を顧みなければなりません。

### (3) 信仰告白・その他

改革派教会は、創立宣言において、見える教会を建て上げるために、信仰告白、教会政治、善き生活の三つを挙げました。この中の信仰告白は何より大切です。そのために聖書が翻訳され、教理に従った説教が求められます。

このためにヘボンは、聖書翻訳を行う傍ら、信仰告白文や教育文書を翻訳したり、作成したりしております。

1872年に翻訳したのが「三要文」つまり、「使徒信条」、「十戒」、「主の祈」です。「植村正久とその時代」に収録されていることまでは確認したのですが、まだ現物は見えていません。

それと同じ1873年に作成したのが、「さいはひのおとづれ、わらべてびきのとひこたへ」です。「キリスト教初歩教理問答書」をご存知の方もおられるかと思いますが、それです。

そして1874年に刊行した「十字架物語」も、初歩的なキリスト教の教えであったと言われています。

そして「耶蘇教略問答」(ウェストミンスター小教理問答)が1876年に出版されます。76年版は、瓦版の技術が用いられた木版ですが、78年に再版される時には、活版印刷となり、この頃から日本国内で活版印刷が出来るようになったことを伺わせます。レジメの裏ページに初版の1ページを印刷しましたが、ご覧下さい。注目していただきたいのは「耶蘇教略問答」とあり「いえすきょうりやくもんどう」とルビが振られていることです。「耶蘇」を「イエス」と読むことは、小教理を翻訳する段階において、宣教師の間で決定したのですが、「カロザース」という宣教師と日本人の協力者たちは、離脱していたのですね。

また、ここに当時の翻訳の特徴が表れています。「第一」ですが、「目的」に対して「めあて」とルビがふってあります。また「永遠」には「かぎりなく」です。漢字においては、意味がすぐにわかるようにし、ルビにおいて当時用いられていた言葉を「あてルビ」としてふっています。こういうことが多く見受けられます。

そして、ヘボンは、1880年に「ウェストミンスター信仰箇条全」を翻訳し、1892年には、「聖書辞典」を編集出版します。

## 5. まとめ

以上、ヘボンの業績を見てきました。私たちが同じことをすることはできませんし、皆がしなければならないことでもありません。ただ、日本キリスト改革派教会に集う私たちが、今、信仰を持ち、改革派教会を建て上げていこうと学ぼうとする時、ヘボンの業績を顧みることが求められています。

ローマの信徒への手紙12章においてパウロは語っております。1～6節「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしてお自分を改めていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています」。

私たちの宣教を考える時、もちろん伝道は大切なことです。しかし同時に、私たちは、有神論的人生観世界観を確立する者として、生活全体において主を証しすることが求められています。一人ひとりが、主から与えられている賜物、つまり仕事や特技・働きによって、主を証しし、福音を宣べ伝えることが求められています。そして具体的には、教会形成、これが直接的な伝道ですが、同時に、教育・福祉の働きも決して切り離されてはならず大切なはたらきであること、さらにこのことを考える上で、政治との関係も、特に日本においては無視することは出来ないことをご理解いただけたかと思えます。

ですから創立宣言における二つの柱、特に主張の第一点「有神論的人生観世界観の確立」とを理解し、ウェストミンスター小教理問答問1を突き詰めていくことが求められています。そしてこれらを、御言葉の養いを通じて、自らの信仰として受肉化していくことが求められています。